

公立学校情報機器整備事業計画

芝山町教育委員会

令和7年3月

芝山町公立学校情報機器整備事業計画

芝山町教育委員会

1 端末整備・更新計画

(1) 端末整備予定数

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
① 児童生徒数	396名	372名	353名	338名	315名
② 予備機を含む 整備上限台数	456台	427台	405台	0台	0台
③ 整備台数 (予備機除く)	0台	0台	353台	0台	0台
④ ③のうち基金 事業によるもの	0台	0台	353台	0台	0台
⑤ 累積更新率	0%	0%	100%	110%	118%
⑥ 予備機整備台数	0台	0台	52台	0台	0台
⑦ ⑥のうち基金 事業によるもの	0台	0台	52台	0台	0台
⑧ 予備機整備率	0%	0%	14.73%	0%	0%

(端末の整備・更新の考え方)

令和2年度の導入から6年が経過する令和8年度に更新を検討している。

(更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)

○対象台数：528台

○処分方法

・使用済端末のデータを確実に消去した上で、公共施設や福祉施設など地域での再利用について検討する。

(再利用が難しい場合は以下の処分を行う)

○端末データの消去方法 ※いずれかに丸をする。

・自治体職員が行う

・処分事業者へ委託する。

○スケジュール(予定)

令和8年度

令和8年10月 処分業者選定

令和9年 4月 新規購入端末の使用開始

令和9年 6月 使用済端末の事業者への引き渡し

2 ネットワーク整備計画

1 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合（％）

必要なネットワーク速度が確保できている学校数：2校中0校

※令和6年5月に簡易帯域測定サイトで1日2回の測定を一週間の期間で実施。

実施値×1.4＝簡易測定結果とした上で、敷設している回線数を乗じて推奨帯域と比較。
（文部科学省「学校のネットワークの現状について」令和6年4月より）

2 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

ネットワークアセスメントによる課題特定スケジュール

令和6年度 芝山小学校 環境確認、令和7年度環境確認の結果を踏まえ順次改善策検討

令和6年度 芝山中学校 環境確認、令和7年度環境確認の結果を踏まえ順次改善策検討

3 校務DX計画

○提言

- ・「GIGA スクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」（令和5年3月）
- ・「教師を取り巻く環境整備について緊急的に取り組むべき施策（提言）
～教師の専門性の向上と持続可能な教育環境の構築を目指して～」（令和5年8月中央教育審議会初等中等教育分科会質の高い教師の確保特別部会）

○チェックリスト

- ・「GIGA スクール構想の下での校務DX化チェックリスト」（令和5年9月）

クラウドツールを活用した教職員間の情報交換

クラウド環境を活用した校務DXの積極的な推進

- 1 教職員間の情報共有や連絡にクラウドサービスを活用していますか
→メールや共有フォルダを利用し、円滑な情報共有を図っています。
- 2 児童生徒・保護者への各種連絡にクラウドサービスを活用していますか
→通知や配布物及びアンケート調査は、保護者連絡ツールを活用しています。
- 3 宿題や定期テストの実施や採点や集計にクラウドサービスを活用していますか
→定期テストのデジタル採点の導入については、各関係機関と連携し研究を行い、推進していきます。

校務処理の負担軽減

校務支援システムへの不必要な手入力の廃止

- 新年度更新における校務支援システムへの児童生徒情報登録は、一部手入力がありますが、基本的には、システム上のデータ活用により、不必要な手入力をしないようにしています。今後廃止に向けて検討をしていきます。

会議資料のペーパーレス化

資料についてクラウドサービスを利用し、共有していますか

- 職員会議等の資料をクラウド上で共有し、ペーパーレス化を進めています。

学校と保護者間の連絡手段のデジタル化

- 1 児童生徒の欠席、遅刻、早退連絡についてクラウドサービスを利用していますか
(PC、モバイル端末からの受付と集計)
→保護者連絡ツールを利用し、児童生徒の欠席、遅刻、早退連絡を行っています。
- 2 保護者への調査・アンケート等に対してクラウドサービスを利用して実施・集計していますか
→保護者連絡ツール機能を利用し、調査・アンケート等の実施・集計を行っています。
- 3 保護者からの問い合わせや連絡についてクラウドサービスを利用して受付・回答していますか
→保護者連絡ツール機能を利用し、問い合わせや連絡の受付・回答を行っています。
- 4 保護者との面談や説明会等をオンラインサービス形式で実施できるようにしていますか
→オンライン形式での実施については、今後検討していきます。

不合理な手作業を一掃

FAXによる交信の廃止、書類への押印廃止

1 業務のFAX使用していますか

→一部使用していますが、今後相手方と他の連絡手段について検討していきます。

2 保護者・外部と押印・署名が必要な交信を省略していますか

→不要としている文書もありますが、今後、廃止に向けて検討していきます。

4 1人1台端末の利活用に係る計画

(1) 1人1台端末をはじめとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

本町では、第5次芝山町総合計画の中で、生きる力を育む学校教育の推進を掲げております。1人1台端末及び、各学校に整備されている電子黒板を始めとした ICT 機器を用いて個別最適な学びや協働的な学びの実現を目指し、自ら問題を解決する力を身につけさせていきます。また、ICT ソフトの協働学習支援ツールや AI 搭載ドリルを活用し、児童生徒たちが時空を超えて共同で学び、情報を共有できるようなコミュニティを築きます。データ分析や AI を活用して教育効果を評価し、調整することで、効果的な情報教育を実現します。これにより、未来の社会に必要な情報活用能力を身につけ、グローバルな競争社会に適応できる教育環境を整備します。

(2) GIGA 第1期の総括

1人1台端末導入以前から、小、中学校へ40台ずつタブレットを導入し、教室での活用に力を入れてきました。また、同時期から ICT 支援員を各学校へ1人ずつ配置し、児童生徒がより深い学びを得るための環境作りや操作が分からない教職員へのサポート体制の充実を図っています。令和4年度では、小、中学校において想定以上の同時接続数となったことによる、接続障害が発生したため、令和5年度にネットワークの通信速度の改善を図るための設定変更を実施し、その後は、通信においての不具合等の報告はなく、利用できています。しかし、今後は、ネットワークアセスメントの結果を踏まえ、各学校のインターネット利用が増えても学びの支障がないように環境整備をしていきます。

GIGA 第2期の導入にあたって、情報活用能力の育成を前面に出した授業改善を小、中学校に指導していきます。令和6年度には、指導者用のデジタル教科書や電子黒板の導入を進めています。使用についてスムーズに導入できるよう、教職員を対象とした利活用についての研修会を町主催で開催しました。今後についても、GIGA スクール構想の目的である現代に合わせた学習環境を整備した児童生徒一人一人に最適化された教育を提供できるよう町としても研究を進めていきます。

(3) 1人1台端末の利活用方策

「教育DXに係る当面のKPI」に示しているKPIにもとづく現状と目標

項目	KPI	現状値(年度)	目標値(年度)
1人1台端末の整備	指導者用端末整備済みの率	100% (R6)	100% (R10)
	1人1台端末を常時活用ができるよう、十分な予備機を整備しているか。	100% (R6)	100% (R10)
ネットワークの改善	無線LAN又は移動通信システムによりインターネット接続を行う普及教室の率	100% (R6)	100% (R10)
	端末利用に係る回線の速度を計測・把握した学校の率	今後把握	100% (R7)
	課題のある学校についてアセスメントを実施済みの自治体の率	0% (R6)	100% (R7)
	必要なネットワーク速度を確保済みの学校の率	0%(R6)	100% (R7)
校務のデジタル化	FAXでのやり取り・押印を原則廃止した学校の率	0%(R6)	検討中
	校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業を一掃した学校の率	0%(R6)	検討中
	クラウド環境を活用した校務DXを積極的に推進している学校の率	0% (R6)	100% (R10)
	次世代の校務システムの導入に向けた検討を行う自治体の率	100% (R6)	100% (R10)
1人1台端末の積極的活用	毎年度ICT研修を受講する教員の率	今後把握	100% (R8)
	情報通信技術支援員(ICT支援員)の配置	1校/1人 (R6)	100% (R10)
	1人1台端末を週3回以上活用する学校の率	100% (R6)	100%(R10)
	デジタル教科書を実践的に活用している学校の率	100% (R6)	100% (R10)
個別最適・協働的な学びの充実	児童生徒が自分で調べる場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	今後把握	100% (R10)
	児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	今後把握	100% (R10)
	教職員と児童生徒がやりとりする場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	今後把握	100% (R10)
	児童生徒同士がやりとりする場面において1人1台端末を週3回以上使	今後把握	100% (R10)

	用させている学校の率		
	児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	今後把握	100% (R10)
学びの保障	希望する不登校児童生徒へ端末を活用した授業への参加・視聴の機会を提供している学校の率	100% (R6)	100% (R10)
	希望する児童生徒への端末を活用した教育相談を実施している学校の率	0% (R6)	100% (R10)
	外国人児童生徒に対する学習活動等の支援に端末を活用している学校の率	100% (R6)	100% (R10)
	障害のある児童生徒や病気療養児等、特別な支援を要する児童生徒の実態等に応じて端末を活用した支援を実施している学校の率	今後把握	100% (R10)